

注：表中で定価はすべて本体価格です（特記したものを除く）。

編集後記：個人的な事情によりこの秋に引越しをすることになり、いろいろと荷造りをしていると、昔のノートや日記らしきものが出てきました。こういうものは懐かしくてついつい読みふけてしまい、片づけが遅れる原因になってしまいましたが、気になったことが1つありました。それは、自分で書いた文章なのに妙に読みづらいのです。

なぜ読みづらいのかと思って文章を見直してみると、「が」の使用が多いことに気づきました。この「が」は主語を示す「が」ではなく、接続詞の「が」の方です。例えば、「今日の競馬はみんなと一緒に楽しかったが、早く家に帰った。」というもので、前後の文を曖昧につなげています。この例文の場合ですと、書いた本人には競馬が終わったあとみんなと一緒にもっと遅くまで遊びたかったという意識があって使用しているものの、読んでいる人にはそのことがすぐに理解できるとは限りません。

この「が」は意識しないとついついたくさん使用してしまい、意味がとりづらい文章になってしまいます。

特に1つの文で2回も3回も使用して長い文になってしまうと、何を主張したい文なのかわからなくなってしまいます。自分の昔の文章はまさにその通りでした。

仕事の報告書や解説、論文などを書くようになって、わかりやすい文章を書く必要性を感じ、文章の書き方に関する本を数冊読んでみました。接続詞の「が」を使わないというのもそれらの本に書いてあり、それ以来できるだけ意識するようになっています。そのおかげか、自信はいまだに無いものの、昔に比べると少しはましな文章を書くようになった気はします。

「天気」に掲載される論文や記事にとっては、学問的に質が高いかどうかは最も重要であるのはもちろんです。それに加えて、読みやすい文章で書いてあれば、より多くの読者が最新の知識を理解できるようになると思います。時には文章の書き方についても意識してみたいかがでしょうか。（こんな文章を書いておきながら、1か所「が」を使ってしまいました。まだまだ未熟ですね。）

（水野孝則）

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)
編集委員 神沢 博(理事)・関口理郎(理事)
藤部文昭(理事)・石田純一
植田宏昭・小田切さやか
大淵 濟・金田昌樹・川島正行
木下 仁・小出 寛・小司禎教
佐藤晋介・住 明正・関山 剛
田口晶彦・高橋 宙・高山 大
寺坂義幸・中西幹郎・中村 尚
新村典子・板東恭子・別所康太郎
水野孝則・水野 量・山本 哲

地区編集委員 北海道 若原勝二・向川 均
東北 小柴 厚・早坂忠裕
関東 河原幹雄・竹内 仁
中部 永尾一平・井上長俊
関西 和田高秀・山中大学
九州 金崎 厚・中島健介
沖縄 仲大安英
編集書記 遠藤和子